

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1092600103		
法人名	株式会社 実喜		
事業所名	京塚温泉グループホーム笑みの里暖輪		
所在地	群馬県吾妻郡中之条町大字入山3257		
自己評価作成日	平成28年9月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	平成28年10月5日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

源泉かけ流しの温泉に入浴したり、医療(内科・歯科医)の担当医先生と連携をはかり安定・安心した生活が送れるよう努めています。庭先での野菜づくりも、苗植え・草むしりなど継続して行い、収穫しておやつ・おかずにして食べてもらっています。今年、試験的に、へちまを植え収穫しました。来年は、へちまの葉を利用したグリーンカーテン夏季の暑さ対策に利用できたらと考えています。又、利用者さまが、地域の一員だと感じて暮らせるために、六合地区の合同文化祭への参加、見学・施設夏祭りは、地区の皆さんに参加していただき、施設のある意味を確認していただいています。近所のくじらや駐車場のライブに参加し主催者に喜んでいただき、利用者様も満足してた。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

使い慣れた食器(飯椀・湯のみ・箸)等、持参してもらい使っている。副菜には小皿や小鉢を使用して見た目で食欲が出るような盛り付けである。飲み物のメニューを使って好きな物を選択できる場面があり、グループホームでの基本となる生活支援が実践されている。また、源泉かけ流しの温泉に午前と午後毎日準備し、希望に添ってマンツーマンで対応している。続けて入浴されている人もおり、湯気の立った風呂場にゆっくり入ることができ、利用者の満足度に繋がっているようだ。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしい生活が出来る介護」を理念とし、入居者への対応で検討が必要な時はその都度話し合いをしています。 また3ヶ月おきにカンファを行い現状を確認し、よりよい生活が出来るよう話し合っています。	新入職員が入った場合は指導者を付けて段階的に教育している。現任者も利用者の生活に寄り添って理念に謳った思いを持って実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	最近では大正琴の慰問や、地域のフェスにも声を掛けて頂き招待をいただきました。 今年も文化祭には掲示する予定です。 段々と地域の皆様にも認知症を理解してもらっており、地域の交流が増えてきました。	コンサートに招待され、利用者とお出掛けすることが継続されている。地区の運動会に参加している。夏祭りを開催し地域住民を招待した。地域のボランティア(八間太鼓)や自治医大の実習生を受け入れ、推進会議の案内を地域に回覧してもらった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りに季節行事の作品等を張り出し利用者様の日常を見てもらい、認知症者の日々の生活に理解及び地区参加に理解をいただけるよう働きかけています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会会議で、皆様にご意見を頂き、サービス・介護の向上に努めています。	定期的開催されている。家族代表・民生委員・地区有識者・地域住民・地域病院事務長・行政の担当者等が出席し、入居者状況・事業計画・外部評価結果等が報告され消防総合訓練にも立会い、意見交換がされている。	家族の代表者のみならず、すべての家族に開催案内を通知して多くの家族に参加を促し、事業所の状況を知らせてほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に施設入居状況・相談を行い協力関係を築いていくよう心がけています。	新規立ち上げの事業所に関する相談等もあり、ことある毎に窓口に出向き情報交換をしている。介護保険の更新代行も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	午前中は暗証番号は張り出しておき、分からない方には一緒に開錠するようにしています。	電子キーになっており、暗証番号を利用者に掲示し週に1回は開錠するように努めている。センサーマットを使用している人もいる。外に出たくなった利用者には職員と一緒に付いていくようにしている。	玄関の開錠については、利用者の尊厳を保障するためにも検討を重ね、引き続き努力をしてほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員で虐待について、理解し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要となった場合、関連施設・町の担当者と相談、協力をし支援していきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約者様に理解しやすい説明をし、契約内容を十分理解してもらい契約しています。解約の際も、ご家族と話し合いをしたうえで解約しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、苦情申したでの説明をしてあり、施設内に苦情窓口を掲示してある旨を伝えてあります。又入居者様・ご家族様には日々の関わり、面会時などに要望を聞くようこころがけてます。	本人からは日常の会話の中から生活全般の意見や希望を聞いている。家族からは訪問時に日常の様子を報告し希望を聞いている。リハビリや散歩の希望が出て個別対応が必要だと感じている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り、カンファレンスなどで情報を共有しています。又スタッフ会議でスタッフからの業務改善などの提案があった場合は皆で話し合い、より良い運営が出来るようにしています。	申し送り時や会議等で職員が気付いた内容や支援に繋げたい事の内容が出て検討プランに盛り込むこともある。足のリハビリや体操、散歩や受診等で個別や小グループでの対応に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を把握し、意見を聞きながら向上心を持って働ける職場環境を創っていくよう心がけてます。又状況に応じて実績を評価した上で昇給などを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加してもらうことにより、個々のやる気・技術・知識・質の向上を図り、実践につながるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表は、地域密着連絡協議会の集会・会議に参加し、その中での情報を活用しており、管理者・スタッフは町からの地域情報交換会として交流を目的とした研修などで交流し質の向上に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の方はスタッフ全員が情報を確認し、生活に慣れるまでは、その方の言動・表情に気を配ってます。又他者との交流が出来るよう他の入居者様にも声掛けなどを行うよう心がけてます。状況に応じて声掛けを統一することで不安など解消できるよう情報を共有してます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の生活状況を確認し、またどんなことで困っていたか、いるのかを伺う。又、入居後はどんな生活をしてもらいたいかなどを確認しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初は入居者様・ご家族の希望を伺い必要なサービスを提供するよう心がけています。入居後は体調・嗜好などを観察し、よりよい生活が出来るよう対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は個々に、できること、出来ない事また好むことも違うので日々過ごす中で見極め把握する。そして、畑・洗濯物・裁縫など嗜好にそったものを手伝ってもらうことにより私たちも支えてもらっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、面会時または受診時に変化があった場合などに電話にて連絡し、3ヶ月に一回入居者様専用のお便りを送って近況報告する事により、信頼関係を築いて行くよう努めてます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際には使用しなれた物の持ち込みにより少しでも安心して過ごせるように配慮している。また、友人や親戚の面会時はゆっくり過ごせるように居室に椅子テーブルを設置し、お茶を飲んで過ごしてもらうなど心掛けている。	飯椀・湯のみ・お箸を持参し馴染みの物を使っている。親戚・知り合い同士が入居しているため、席で会話ができるように配慮している。畑仕事を継続し草むしり等もお願いしている。リハビリメニューや裁縫道具等用意している。外泊にも対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様間でトラブルが起こらないよう、一日が穏やかに過ごせるよう、入居者様の会話中の表情・言動に注意しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際には、ご家族に相談しやすいような声掛けをしています。また、相談があった際は真摯に対応し何が出来るかきちんと考えフォローしていくよう努めます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の希望や意向について、話しやすい空間になるように努めています。またご家族の面会時にもご家族の要望を聞き安心して生活して頂けるよう支援しています。	ケアマネジャーが定期的に訪問し、日常会話を通して希望や在宅での生活等、聞き取っている。家族からは面会時に独自の様式[今後の生活・健康面や心配事等]を活用し、意向を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の生活歴を参考に、職員間で情報を共有し、その人らしい生活が出来るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や状態把握ノートを見直し、心身状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・必要関係者と話し合い、意見や要望を基にご本人にとってよりよい介護計画を作成するよう心がけています。	毎月のカンファレンス後にモニタリングを実施している。3ヵ月毎に意向確認やアセスメント・サービス担当者会議を行い、介護計画の見直しが行われている。又、状態変化時は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残し、職員間で個々の情報共有を徹底し、適宜モニタリング・カンファレンスを行い情報を共有し介護計画の見直しを行ってます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況などから生まれる様々なニーズになるべく沿えるよう柔軟なサービス提供を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人・家族・地域の方々からの情報を基に、地域資源を活用し日々安全で穏やかに暮らせるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医の要望を聞き、本人・家族の希望される医療機関で医療が適切に受けられるよう支援しています。	入居時に説明しかかりつけ医の継続か協力医を選択できる。協力医による基本は通院だが往診対応もある。かかりつけ医の受診は基本的には家族だが職員も家族の事情に協力している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師に日常生活での変化・異常時の状態を伝え適切な受診が受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には日常生活の基本情報を伝達しています。また定期的に面会をし、その際担当者などと情報交換・相談を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期になった際は、ご家族・本人・主治医・事業所で今起こりうる状態を話し合い適切な援助が出来るよう努めています。又終末期の際は、ご家族の心に寄り添って一緒に受け入れられる様に努めています。	重度化した場合や看取り等の支援に関する事業所としての独自の指針については検討中である。協力医は看取りについて協力的である。	指針を早めに完成させて、事業所の方針を家族等に説明し、関係者が共有できる機会を作してほしい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時の対応マニュアルをスタッフ間で共有しており、救急車の要請の手順を作成し誰でも対応できるよう提示してあります。また入居者様も参加し防災訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回防火避難総合訓練を消防士立会いの下行っています。また近隣の区民の方にも協力を依頼し避難所も13区公民館を使用させてもらえるよう依頼してあります。	28年7月に運営推進会議メンバーも立会い総合訓練を実施。10月には消防署立会いの避難・誘導・消火訓練を予定している。備蓄については、現在検討中である。	いざという時に職員と利用者が避難技術を身に付けられるように自主訓練を加えてほしい。又、備蓄についても早急に準備をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人間性を尊重し、言葉かけ対応に配慮しています。又、個々の時間を設けたり目線を合わせたりと安心感も持っていたりいただけるよう支援をしています。	その人らしさが失われないように誘導時には「~しますか」と声をかけ本人が選択し、安心できるような声掛けを職員は共有している。財布を持っている人もおり自販機で買うこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日一緒に生活していく中で、入居者様が思いや希望を言いやすい環境をスタッフで創る様心がけています。又入居者様が自己決定できるような声掛けや働きかけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの言動を良く観察し、希望に沿った生活を出来るよう支援しています。また希望が自らでない方には一緒に寄り添い何がしたいかなど考案していきながら充実して一日を過ごせるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族と連絡を取り合い、季節に合ったものサイズが合ったものを着用できるようにしています。また髪の毛は出張美容師さんと呼びカットだけではなく、白髪染めなどが出来るようになっていきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように献立を記入し掲示してありまた、食事形態により説明を行うようにしています。食事量が低下してきた際には、ご本人様とスタッフで話しあうなかでどのような工夫をすればよいか考えながら支援しています。	配食業者を利用し、ご飯・汁物は職員が作っている。献立が決められているが、彩りが悪い場合は食材を加える事もある。誕生日や行事の場合は配食を止め職員が作ったり、外食の機会もある。お団子やおはぎ作りを利用者も手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食、水分は必要に応じて摂取量を把握できるようにしています。また食事量低下や体重減少傾向の方には高カロリーの飲料などで工夫をし悪化を防ぐよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアを、個別で行っています。又自分で行える方には声掛けをし、出来ないところは介助にて磨き残すことが無いようにし口腔内の清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人ひとりにあった排泄方法をレベルに合わせその都度考えるために何が出来るか出来ないかを分析し声掛け・介助をしています。	チェック表を参考にし、個別のタイミングや時間でトイレ誘導をしている。排泄用品に関しては本人に合う物を使用している。汚れた場合はシャワーや陰洗等で清潔を保持している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を用いて日々の回数を確認しています。また、便秘にならないよう定期的な運動・水分摂取など心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表などはなく、声掛けや入居者様の体調の良い時間帯に合わせて入浴できるようにしています。	午前と午後毎日準備しており、一対一の対応で掛け流しの温泉に入浴している。異性介助の場合は利用者に声をかけ同意を得ており、同意を得られない場合は介助者を変えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時に着用するもの、掛ける物は自宅で使用していたものを持ってきてもらったり、また空間の配慮として棚など慣れ親しんだものを持ち込めるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ一同薬情は見れるようにしてあり、変更があった場合は申し送りで伝えるのと、状態把握に記入し全員が把握するよう努めています。暗記するまでには至らないので、共に確認しあい支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性なら、家事で洗濯・清掃などを中心に行ってもらったりし、男性には畑仕事や誕生日会や行事の乾杯の挨拶などをしてもらったりと、張り合いが出るように試行錯誤しながら、入居者様にあった気分転換が出来るよう支援するようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩は、なるべく希望時に行くようにしています。(スタッフの人数により対応できない時間帯あり。)また、月に一回は買い物ドライブ、外食ドライブなどに外出し気分転換が出来るようにしています。	日常的には散歩や庭先でお茶飲みをしながら風や陽にあたる機会がある。ジュースやパン、本を買いに出かけている。ふらっと一人で出かけそうな利用者には同伴し、気分転換に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時・訪問パン販売などの時はスタッフ見守りのもと可能な方にはお会計をしていただいております、それ以外の金銭管理が不可能な方にはこちらで支払いなどをしてお預かりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望時はスタッフが代行しかけています。又、自分で携帯電話を所持している方がいますが充電は出来ないのので、こちらで充電をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は天窗から自然光を取り入れ明るい空間、壁面には共同作業など製作作品をかざり、観葉植物、散歩の際に積んできた草花などを飾ることで季節感を感じてもらい、居心地の良い空間を創るよう努めています。	大きなテーブルと小さなテーブルに分かれている。好きなテレビ鑑賞や縫物、トランプやリハビリをする共用空間は不快な臭いも無く清潔である。季節の花が飾られ、利用者の作品を掲示している。浴室等の案内掲示が分かりやすい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のホールでは、入居者様の相性や病状などを考慮し席の配置を決めています。また、適宜椅子を持ち運び、個別でリハビリや休憩・読書などを出来るようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご家族に協力していただき、自宅で使用していた布団・棚などを持ってきていただいたり、茶碗やお箸も使い慣れたものを持ってきていただくよう配慮しています。	エアコン・ベッド・洋服かけが備え付けられている。衣装ケースや寝具、化粧品等の日用品が持ち込まれており、利用者の個別性に添った居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様と時間を共にして、寄り添い入居者さまを理解出来ること、出来ない事を見極めてスタッフ間で話し合っています。また情報を共有し、スタッフ一同統一した介入方法になるよう心がけ、自立で行えることはゆっくりでも行ってもらっています。		